



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

新年号

2022

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪番 太田 法生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

印刷: 植平印刷株式会社

旭川別院ホームページ

真宗大谷派旭川別院 | 検索

新年挨拶



真宗大谷派旭川別院輪番 太田 法生

新年を迎え皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスの感染下で、非常事態宣言の発令等により、移動の自粛、集会をともなう仏事や会合、研修等の形態を制限せざるをえないこととなりました。ワクチンの接種も進みましたが、また新たな変異ウイルス株が発生するなど、今後もあらゆる場所に於いてマスク着用での不安な生活は続いていくこととあります。

さて、昨年COP26「国連気候変動枠組条約」の会議が英国スコットランドにて開催されました。年々上昇の止まらぬ地球の温度、それに伴い激しさを増す自然災害、北極などの氷河が溶けることによる海面の上昇、熱波による森林破壊など、数々の現象によって地球上に生息するすべての生き物の生存を脅かしています。地球温暖化の原因となつて二酸化炭素やメタンなど「温室効果ガス」と呼ばれる排出を、どれだけ減少させられるかが、根本的なカギとなっています。

壊が止まらず、巨大な森林が地球の二酸化炭素を吸収し「世界の肺」と呼ばれてきたものが、日本の十五倍を超える面積は二〇%減り、大豆をはじめとする農地転用にブラジルのアマゾン開発による「利益優先」が森林伐採を加速させているといわれています。私達は便利で快適な生活を追い求めた結果地球を汚染し、同時にいのちを脅かすことになりました。便利になればなるほど忙しく、快適になればなるほど当たり前の生活は、犠牲を伴う痛みや悲しみ、まして感謝の心もありません。

四年前の胆振東部地震の災害では、多くの犠牲と災害、さらには全道的に停電となり、わずか数日とはゆえ、電気がない大変不便な生活を思い知らされました。さて『正信偈』には「五濁悪時群生海」と親鸞聖人の時代も「五濁の悪時」と押さえられておりますが、現代社会においても益々深刻な問題に、眼を背ける事ができない「五濁の悪時」なのである。さらに地球温暖化だけではない、核のゴミ、原子力、疫病、内紛、戦争、

飢餓といった、現代から未来に向けて、いのちの生存も益々脅かされています。五濁悪時の最初の濁りは「劫濁」という、まさしく前述した私達人間が引き起こしてきた、現代社会の時の濁りなのであります。

『正像末和讃』には「五濁悪世の衆生の 選択本願信ずれば 不可称不可説不可思議の 功徳は行者の身にみたり」と聖人は御和讃に記され、その五濁悪世の衆生はまた『御文』に、「五濁人の事なり。」(五一六)と一切衆生悪人の今を生きるわれらのことなのである。しかしまた本心に愁い悩むことなく、自らを問い返すこともなく、自らの欲望のままに生きていくのが現実である。

そのために周りにどうような影響があるろうとも関係ない、未来にツケを残してもかまわないという利己的な生き方になっていきます。

「選択本願信ずれば」と選び取られた本願念仏は、親鸞聖人が勧めて下さる称名念仏に聞く身を賜って、世の悲しい現実と、我が身の罪業性を問われ続けていく歩みが浄土真宗でありましょう。

今後は脱炭素社会に向けては、非常に困難な目標であるが、今一度、身土不二のいのちの大地にとどまって、浄土を建立された如来の本願に尋ねながら、愈々人間を深く見つめ直す歩みとしたいものであります。

本年もどうぞ別院に足をお運び、お参り下さるようお待ちしております。

ごあいさつ



真宗大谷派旭川別院 責任役員 佐古 光臣

令和四年の新年を迎え、明けましておめでとうございませう。

昨年は、コロナ禍が収まりつつある中ではあります、太田法生輪番のもと、報恩講が勤まりましたことは、ご門徒の仏法相統護の思いが結集されたものと思えます。

さて、本山では行財政改革として、各教区への助成金・交付金の減額措置が発表されました、教区の教化原資を独自性をもって賄えとのことです。そうなりますと当然地方及び各寺院の教化費が不足しますが、真宗門徒に精神的な支えは惜しまないが資金は自ら調達せよと言われている気がします(私見ですが)。

また今年も、五年ごとの全国門徒戸数調査「第四回」が開始されます。常々宗教意識の希薄化や寺離れ、過疎による門徒の減少は指摘されてきましたが、前回の第三回の調査で都市部を抱える教区でこの傾向が顕著だったことは、調査への不審につながっています。北海道教区会「桂井議長」が申しています。調査は公平・公正・透明性が必要とされます。北海道は三年ごとに独自の調査を基に正確な報告を行って来ました。何故このことをくどくど申しますのは、今回の調査結果を、本山経費の依頼(本山ご依頼額と申します)に十割使用した金額を各教区に依頼してくるからです。

真宗大谷派教団では、宗祖親鸞聖人生誕八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が近づいています、お待ち受け上山や、団体参拝が旭川別院でも募集されると思っています。是非京都真宗本廟参拝に期待してまいります。

年頭にあたり明るい話にはなりませんでしたが、皆様には今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

合掌

謹賀新年

代表役員

太田 法生

責任役員

○金倉 泰賢
新谷龍一郎
佐古 光臣
荒井 保明

常議員

○両瀬 渉
諏訪 宣雄
脇坂 慎一
木下 雅之
熊崎 智浩
○加藤 亨
塚本 信樹
生駒 雅彦
田中 祥子
福本 清

院議会議員

○相河 孔輝
○旭 正依
○桂 励
○宗隆 教信
○新田 守
○佐藤 英行
○川合トミエ
○向井 敏純
○屋敷 桂子
○野村 幸夫
○木津 勝
○鈴木 康弘
○池田 由恵
○藤岡 明良
○松澤 正樹
○渡辺 仁海
○吉田 幸磨
○小澤 聡
○尾田 泰一
○荒木 靖人
○藪越百合子
○武藤 満
○安藤 信幸
○橋本 悦朗
○三上 定子

監事

梶 勝洋
小城 公明

本年もどうぞ宜しく
お願い申し上げます。

(順不同・〇印 崇敬寺院御任職)

見ていびくがある④



蘭越町 光福寺住職

金石晃陽

親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏もうしたること、いまだそうらわず

この一文は、『歎異抄』第五章の冒頭の言葉です。意味は「この親鸞は、亡き父母の追善供養のために、一度たりとも念仏申したことは、未だかつてありません」です。初めて聞く人には、驚くべき言葉ではないでしょうか。中には、親鸞という人は、何と冷たい、冷徹な人であろうと思われられるかもしれません。しかし、幼くして両親と別れた親鸞聖人にとって、亡き父母への思いは、どれほど強かったことでしょうか。著作の中にも「釈迦彌陀は慈悲の父母」「釈尊と阿彌陀仏は、慈悲の父と母である」とか、「聖徳太子は、仏法に導いてくださった父母のようである」とも讃えています。

この「親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏もうしたること、いまだそうらわず」のお心とは、何でしょうか。この一文は、亡き人は、私にとって、どのような存在なのか。亡くなって、今どこにいるのか。親鸞聖人が語られる念仏とは、一体何なのかを端的に教えてください。さる言葉です。「亡き人」の言葉には、二つの内容があると思

います。一つは「諸仏」、親鸞聖人は、亡き人を諸仏と仰いでいかれました。諸仏とは、迷いを超え、この私を導いてくださる、これが諸仏です。二つは、「霊」、つまり迷っている、さ迷っているものです。この二つ目が、今日一般の理解ではないでしょうか。皆さんは、このような言葉を耳にしたことはありませんか。例えば、出棺の折「ばあちゃん、迷わんでよ」とか、「じいちゃん、迷わんで、いとこ行くんだよ」。きつと、言っている本人も、また黙って頷いている人も、亡き人は迷っている、と考えている。だから、「迷わんで、いとこ行くんだよ」となるのではないのでしょうか。私たちが、亡き人を「仏さま」と言っても、中身は「霊」なのかもしれません。

この第五章の冒頭の一文の背景には、このよう理解や疑問をもつ人が今と同じく、当時大勢いたに違いありません。だからこそ、親鸞聖人はおっしゃるのです。亡き人は、迷っている。暗くてひどい所へ行って、迷い苦しんでいる。だからこそ、念仏して、その念仏した善根功徳を振り向けて、亡き人を、少しでもいい所へ行って、幸せになってほしい。そのような意味で、親鸞は「一辺にても念仏もうしたること、

いまだそうらわず」とおっしゃるのです。迷って、苦しんでいるのは、誰のことでしょうか。他ではない、私のことです。

イライラ・クヨクヨ、カッ

仏教では、迷いの世界(境界)を「三悪道」と教えてくださいます。「三悪道」とは、死後の、どこかにある世界ではありません。私たち一人ひとりの煩惱が作り出す世界です。限らない煩惱そのものの私自身ですが、特に「三毒の煩惱」と言います。「貪欲・瞋恚・愚痴」を指します。「貪欲」、限らない欲が、「餓鬼」を作ります。欲は「欲しい」。あれも欲しい、これも欲しい。まだ物に向かっているのはよいのですが、これが人に向かうと厄介です。あの人には、あなな欲しい、この人には、こうなつて欲しい。なにもかも全部自分の思い通りになつて欲しい。しかし、思い通りにならない。その結果「イライラ、イライラ」。

「瞋恚」(怒り、腹立ち)が、「地獄」を作ります。今で言うところ、「キレル、カッ」となる。親子間で「カッ」となると親子げんか、夫婦間で「カッ」となると夫婦げんか、国家間で、お互いに「カッ」となると紛争や戦争に発展してしまいます。畜生は、愚痴の心です。どうして私だけが、このような目に遭わねばならないのだから。何で私だけが、「クヨクヨ、クヨクヨ」。

新型コロナウィルスの感染拡大が始まって、もうすぐ二年になります。この間、いかがだったでしょうか。何度も緊急事態宣言や蔓延防止のため営業停止や時短要求。かけがえのないお寺の行事や法座も休止や延期、そして縮小。かわいそうなのは子供たちです。学校も休校、様々な行事も中止や延期。「ステイホーム」家でじっとしておけ、外に出るな。友達にも会

えない、一緒に遊べない。大人も子供もみんな、「イライラ、クヨクヨ、カッ」、日本だけではない、世界中が自分でも気づかない、深い迷いの世界、「三悪道」をコロナウィルスが、私たちに具体的に知らせてくれたのではないのでしょうか。

亡き人は、今どこに

それでは、「父母の孝養」とは、一体何でしょうか。今でいうなら「親孝行」ということでしょうか。普通に親孝行といえは、何かの記念日にプレゼントをしたり、温泉旅行に連れて行ったりすることでしょうか。一番の親孝行とは、親に心配をかけることではないのでしょうか。同じように、亡き親への孝養とは、親に心配をかけることだと思いませんか。亡き親は、私の何を心配しているのか。迷いの世界に沈み、そのことに全く気がつかない私であるからこそです。私を心配してくれる、それが「諸仏」です。

今年、父が亡くなって二十五年になりました。父が亡くなった当時、私は、何人かからお叱りを受けました。「亡き前任住職さんは、お浄土に帰られ、仏さまとなつて、お浄土から、私たちを見守っていてくださる」との言葉に、私は、「父は、浄土にはいない」と。では、どこにいますか。「父は、三悪道にいます」。大事な前任住職さんが三悪道にいますとは何事ですか。「いや、父は、間違いない三悪道にいます。なぜなら、この私が三悪道にしか生きていないからです」と。亡き人は私の後ろにいる。西浄土に至つたら、東に回る。東のどこまで回るのか、三悪道を生きる私の後ろまで回って、「この道を往け。どうか、本願に目覚め、念仏申して、浄土を願う身になってほしい」と背中を押し、呼びかけ続けていてくれます。今もなお。(完)

初心の集い

身近な仏事と輪番連続講話 年八回

令和四年四月より前半列座・後半輪番のお話を中心に開講します。初めてお寺にかかわりを持たれる方、是非お待ちしております。

日時 毎月十三日

午後一時～三時(六月・八月・十一月・一月はお休み)

場所 旭川別院本堂(冬期は一階広間になる場合あり)

内容 お経の練習・お内仏のお給仕・お釈迦様、親鸞様の教え等、輪番のお話

持ち物 念珠・勤行本(貸し出し可)

※会員制ではありません。皆さんお待ちしております。(すべて無料です)



春季彼岸会

令和四年 三月二十日～二十一日

彼岸とは、覚りの世界「浄土」という意味です。古来より日本では、春秋の太陽が真東から真西に沈むすがたを見て浄土を想うという中国からの伝統を受け継ぎ「彼岸会」という仏教行事を営んできました。本願寺第八代の蓮如上人は、春秋彼岸を「昼夜の長短なくして、暑からず寒からず(中略)仏法修行のよき節」だと述べられました。

亡き人を偲ぶ事を通して、亡き人と出遇いなおし、そして自分自身の帰すべきところを定めよと呼びかけておられます。是非ともお参り下さいますようご案内申し上げます。

日時 令和四年三月二十日～二十一日 午後一時より
講師 不退寺住職(苦小牧市) 新保 宗之師

法座・行事案内予定

1月		
元旦	午前零時	修正会
15日	午後7時	壮年の集い
16日	午後1時	同朋の会
17日	午前11時	群萌の会
18日	午後1時	婦人会
25日	午後1時30分	あゆみ会

2月		
1日	午後7時	公開学習会
7日	午後1時	群萌の会
13日	午後1時	初心の集い
16日	午後1時	同朋の会
18日	午後1時	婦人会
19日	午後7時	壮年の集い
28日	午後1時	定例法座

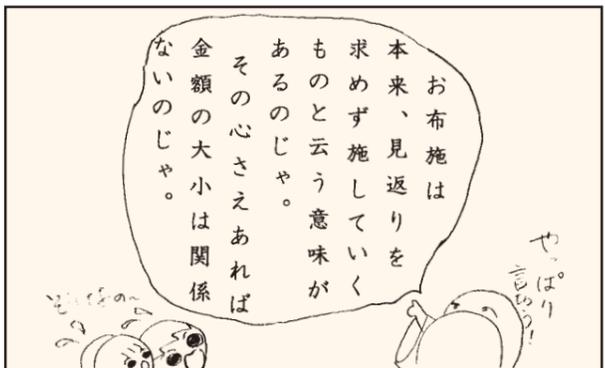
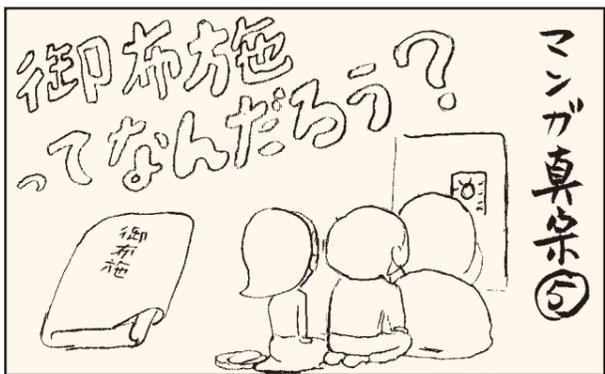
3月		
1日	午後7時	公開学習会
7日	午後1時	群萌の会
8日	午後1時	マヤの会
13日	午後1時	初心の集い
16日	午後1時	同朋の会
18日	午前11時	婦人会幹事会
19日	午後7時	壮年の集い
20日	午後1時	春季彼岸会

※コロナ感染状況により、行事の変更もあります。ご了承下さい。

門徒新年会中止のお知らせ

毎年、年始に開催をしております別院門徒新年会ですが、新型コロナウイルスの感染が懸念される状況を鑑みて、昨年にも引き続き本年もやむなく中止させていただきます。





仏法 これあれ

道内御法話巡り

聞法の間を賜る



上川郡 風連町
第十三組 高德寺住職
佐々木 順道

冬を迎え、雪が降ってきました。この季節になると思い起こされることがあります。四年前の初冬、お寺に一台のホイールローダー(除雪車)がやってきました。それはひとりのご門徒から、「お寺

のために使ってください」と多額の寄進をいただいたことから始まります。さつそく役員会が開かれ、本堂の仏具を揃えるのか、他に必要なものはないか等、いただいた寄進の用途を話し合いました。私は仏具の修繕・新調をさせてもらえたらと心を踊らせていました。話し合いの中で「冬期の境内除雪に、ホイールローダー購入に使用してもらおうのはどうだろうか」というご意見があり、満場一致で決まりました。はたして誰がオペレーターになるのだろうかと思いきや、やはり住職の私でした。

慣れない除雪が始まりました。雪が多く降った日は、除雪に費やす時間も多くなります。「どうせ溶ける雪なのに」「この時間があつたらたくさん本が読めるのに」など、数々の不平不満が頭をよぎり続けます。そんな冬の日々を過ごす中で、ある先生の言葉を思い出しました。「お寺は聞法道場です。」

お寺は本堂という建物に限らず境内もお寺であり、そこは聞法道場である、とあらためていただきなおすことが後押しとなり思いつきました。それはホイールローダーに小さなオーディオを持ち込み、長年録り溜めていた先生方の講義録を聞きながらの除雪です。自らの意思では聞くことが出来なかつたであろうご法話に、いま出遇わせていただいています。「遇いがたくして今遇うことを得たり。聞きがたくしてすでに聞くことを得たり。」(『教行信証』親鸞聖人)と、宗祖は教えに出遇い聞くことができただけで、感謝をもって受け止められました。

寄進して下さったご門徒は亡くなられました。「お寺のために」と願いが込められた寄進は、そのまま「あなたの聞法のために」と、この私に差し向けられていたのでした。この私が、はからずも教えに出遇い、聞かせていただいているこのときが感動的なことであることに気づかされています。長年お世話になった方々が亡くなられていきます。さびしいです。同時に私にとって亡き人は、聞法によって、問い返され、教えられ、思い知らされたことを報告できる人であり、そのことがとても嬉しく、豊かな世界が広がっていきます。

報恩講報告

昨年の報恩講は、一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症防止の観点から院内で執り行うことになりました。毎年恒例のお齋等も中止し、少々寂しい報恩講となりましたが、今年本来の姿に戻りお勤めしていきたく考えています。宜しくお願い致します。



親鸞誕生会

五月二十七日(二十九日)二年連続で開催できなかった親鸞誕生会ですが本年は現如上人百回忌法要と合わせて盛大に開催いたします。普段見る機会が少ない沖繩の伝統舞踊のエイサーや平安時代から続く日本古来の儀式音楽である雅楽演奏、また豪華景品を用意したビンゴ大会など多くの催しを計画しています。御門徒の方だけに限らずどなたでもご参加いただけます。休日のひとときをお寺でゆつくり楽しく過ごしてみませんか?お気軽にお越しください。

別院子ども会

昨年はコロナウイルス感染防止の為、開催が難しい一年となつてしまいました。収束しつつある本年は、コロナ前の様に多くの子も達で賑わうお寺を願い、お泊り会、いちご狩り等多くの催しを考えております。安心して子ども達を送り出していただけるよう感染対策もしっかり行いますので、開催の際は是非ご参加ください。日程など詳しい詳細を知りたい方はお寺までお問い合わせください。



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

二学期は、猛暑の夏から過ごしやす秋、そして冬への季節の移り変わりを、日々の遊びを通して五感で十分に感じた子ども達です。年長いきりん組は、運動会、わくわく冒険旅行の経験から、友だちと一緒に活動する楽しさと充実感を味わっています。

季節の移り変わりを感じています

0歳児ひよこ組

のんびりと園庭で遊びます



2歳児うさぎ組
雨の日の水たまり



1歳児りす組
中庭で雪遊び



3歳児こあら組
秋の宝物探し



宝物はお出かけバックに入れて大切に持ち帰ります。

4歳児はんだ組
初雪に触れる



力を合わせて、大きな大きな雪玉を作っています

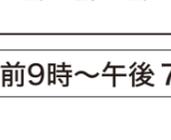
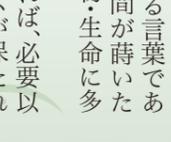
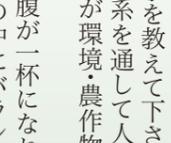
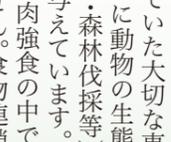
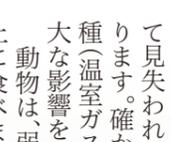
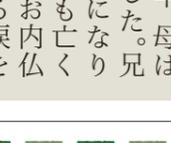
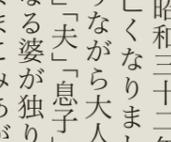
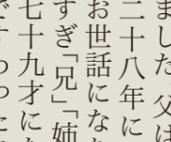
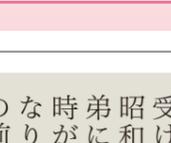


園庭は鮮やかな色の落葉で覆われました

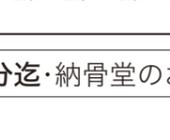
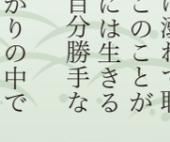
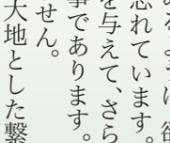
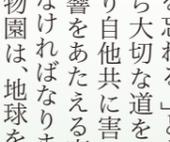
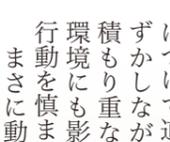
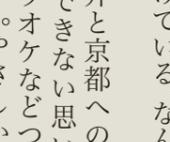
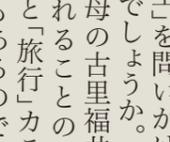
「食育活動」秋は「わくわく収穫祭」です！

◆大根

ウッドデッキに、おでんやさんが開店！掘れたて、ゆでたてのあつあつの大根に味噌だれをかけていただきました。



◆枝豆(さき組)
毎日お水をあげて育てた枝豆。沢山収穫できたので、大きい組さんへおすそ分け。ゆで上がった枝豆で、ピザ作りに挑戦しました！



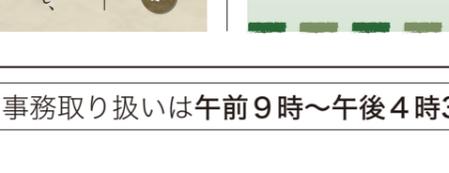
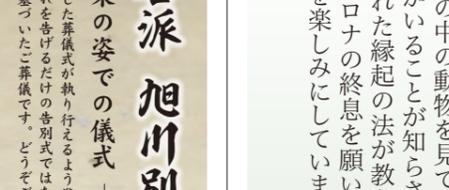
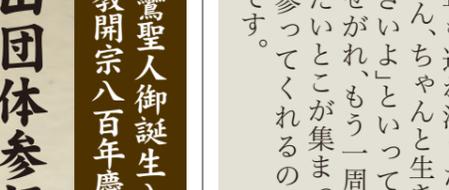
◆じゃがいも



収穫したおいもの皮はアルミ箔でむきます。はんだ組はふかしいも、きりん組はいもちを作りました。



◆トマト(凜々子)
中玉の凜々子という品種のトマトで、トマトケチャップを作り、フライドポテトにたっぷりかけて美味しくいただきました。



5歳児年長 きりん組の活動



11月2日 幼稚園報恩講



わくわく冒険旅行前日、夕食の材料を買いに行きました。



わくわく冒険旅行では、旭山動物園の地図をみながら、皆で見た動物を話し合い、ルートを決めました。



コドモリくらすの佐野さんに、「ヒグマのお話」をしていただきました。本物の熊の毛皮を見ると、その大きさに驚く子ども達。熊の冬眠の様子、もしヒグマに遭遇した時どうしたら良いのか、等大切なことを学ぶことができました。

ご門徒の声

思い



門徒 中蘭 ハヤ

私は父が六十四才、母が四十五才、兄弟十二人の末っ子でこの世に生を受けました。父は昭和三十二年、母は昭和二十八年に亡くなりました。兄弟にお世話になりながら大人になり時がすぎ「兄」「姉」「夫」「息子」も亡くなり七十九才になる婆が独りお内仏の前ですわったままこみあがる涙をふきもせずの日々です。お年始めに旭川別院からいただいたカレンダー、十月の標語「老いが「病」が「死」が「生」を問いかけています。なんと深い言葉でしょうか。

父母の古里福井と京都への二人旅も忘れることのできない思い出、登山達と「旅行」カラオケなどつきない思い出もあるのです。やさしかった夫五十五年も連れ添った。あたたかい人「母さん、ちゃんと生きてちゃんと死になさいよ」といつてくれた、愛しい私のせがれ、もう一周忌です。仲がよかつたところが集まって別院の小広間で参ってくださるのです。有り難いことです。

うどんダゲ

昨年は、緊急事態宣言により楽しみにしていた旭山動物園の閉園も続きましたが、それでも四回程行かせて頂きました。園内の中には「富を貯めるのは、各人の倉にモノを貯めることではなく、大地を豊饒に自然を豊かにし自然の中に富を貯めることだ」とアザラシ館に掲示しているアイヌ民族の方の感性の言葉があります。私はここを通る度に足が止まります。動物の生存を脅かしているのは、「あなたが張本人ではないですか」と問われているような気がするからです。私たちは、豊かな生活を求め大量生産・大量消費により動物の生存を脅かしています。この事実を通して見失われていた大切な事を教えて下さる言葉であります。確かに動物の生態系を通して人間が蒔いた種(温室ガス・森林伐採等)が環境・農作物・生命に多大な影響を与えています。

動物は、弱肉強食の中で腹が一杯になれば、必要以上に食べません。食物連鎖の中にバランスが保たれています。私は、満腹になってもまだ欲しがり、妻に注意されているのが現状です。食べ物だけではありません。先人の言葉に「欲深き人と、降る雪は積もるにつけて道を忘れる。」とあるように、欲に溺れて恥ずかしながら大切な道を忘れていきます。このことが積もり重なり自他共に害を与えて、さらには生きる環境にも影響をあたえる事であり、さらには生きる行動を慎まなければなりません。

まさに動物園は、地球を大地とした繋がりの中で生きる縮小した世界を現しています。繋がりを失った私は、檻の中の動物を見ているようで、逆に狭い檻の中に私がいることが知らされます。改めて、お釈迦様が説かれた縁起の法が教えて下さいます。本年は、さらにコロナの終息を願ひながら昨年以上に来園できる事を楽しみにしています。

合掌 (大野)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

本山団体参拝予定

(太田輪番同行)

日時 二〇二三年 四月 予定

＊本山一座法要参詣

＊三泊四日予定

＊参加人数 三十名程度

＊経費 十六万〜十七万

＊本年四月以降に日程の詳細が決まります。

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬儀をされた方は是非ご利用ください。



使用料 (祭壇・会場費込)

- 各広間 100,000円 (税込)
- 大谷ホール 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409